資料２

地区懇談会の報告・分析

第２層の協議体という位置づけで、今年度、陶、明世、稲津の３地区で「地域福祉懇談会」と題して開催しました。

ねらい：地域の中に飛び込んで、地域の実態を理解する。
内　容：それぞれの地区の人口推移、高齢化率、介護認定率及び地域包括ケアシステムについて説明後に、意見交換を行いました。

【陶地区】
１．開催日時
　平成３０年９月１３日（木）午後７時から８時３０分
２．会場
　陶コミュニティセンター
３．参加者
　民生委員、福祉委員、自治会役員等　５４名
４．まとめ

　陶地区では毎年福祉関係者による懇談会が開催されていたことを踏まえ、民生委員の担当地区を軸にグループを作り、高齢者の日々の生活を支える資源について話し合いました。
　陶地区には、スーパーに加え地元商店が配達する仕組みがあり、また移動販売の利用もあって、買い物に困るという意見は多くありませんでした。また、地元の理髪店や喫茶店が外出支援のサポートに関与していたり、交流の場も散在していることから、顔を合わせることで声掛けや安否確認ができるという認識があることが分かりました。
　ニーズとして多かったのは、町内での医療の確保と病院までの移動手段の確保であり、交通機関の利便性を追求する声が多く聞かれました。

テーマ
～日々の暮らしを支える資源～

水上
大川
旭町3.4
宮町、新町
本町・元町
梨ケ根
東町・旭町
細久手・下山

【自助】・自身や家族による対応
・市場サービスの購入
【互助】・地域住民の取り組み

声掛け
・独居、老々世帯への声掛け
・お隣への声掛け
・長寿クラブ
・立ち話
・広報配布
・消防点検での声掛け
・区費集金
ひなたぽっこを顔見て渡す
・長寿クラブ
・民生委員
・福祉委員

交流
サロン一歩
常会の無尽がなくなった
・同年でのモーニング
・近所の人と体操
・同年無尽
・町内の女性部が毎月１回会合
・サロン一歩
ボランティア交流会
婦人会会食
ストレッチ教室
・しずちゃん体操
・ぬくもり
・宅老所
・水上広場（コーヒータイム）
・班の親睦会
・サロン一歩
・集会所にてコーヒー会
・長寿クラブのパターゴルフ
・昭和の歌の会
・ニコニコ会
・フォークダンス
・サロン一歩

外出支援
・ＳＫＵ
・コミバス
・河野理容
・ＳＫＵ
・床屋が外出に付き合う
・カトレア喫茶店
・安藤床屋
・ＳＫＵ
・出張理美容
ＳＫＵ

安否確認
郵便局
新聞店
牛乳配達
ヤクルト
・近所
・回覧
・ひなたぽっこ
ひなたぽっこの配布
近所をのぞく
民生委員訪問
福祉委員
同年グループの集い
・新聞配達
・近所の人
・小規模多機能
・民生委員

配食
市の配食
ランチサービスの利用
・日清食品の配食便
・近所のおすそ分け
市の配食
宅老所の配食サービス
・ファミリーマート
・カーマ

家事援助
・草刈応援
・ゴミだし
障子の張り替え
・小規模多機能
・シルバー
シルバー
シルバーささエール

移動販売
・ヤクルト
・肉のマルゴー
・旨みや号
・かね周
・水曜に旨みや号
旨みや号
・旨みや号
・寝具乾燥
・かね周
・マルゴー
・旨みや号

食材配達
・ワタミ
・生協
・ショクブン
・生協
・陶町（新星・加藤食品）
・かね周
生協
・ワタミ
・加藤食品

こんなのあったらいいな
地域医療のための医者の確保
・病院の付き添い
・100円バス
・デマンド交通
週一程度のラジオ体操
・デマンドタクシー
・夏休み等の子供預かり（働きやすさ）
・町内100円乗合タクシー
・瑞浪まで200円のデマンドタクシー
・ゴルフ場の温泉提供
・玄関に旗
・ゆっくり走る移動販売
・コンビニの地域まわり
・パン屋さん
・病院行へのバス
【不安！！】医者の確保
バス停の調整

資料２

【明世地区】

１．開催日時

平成３１年２月９日（土）午後１時３０分から３時４５分

２．会場

市民体育館

３．参加者

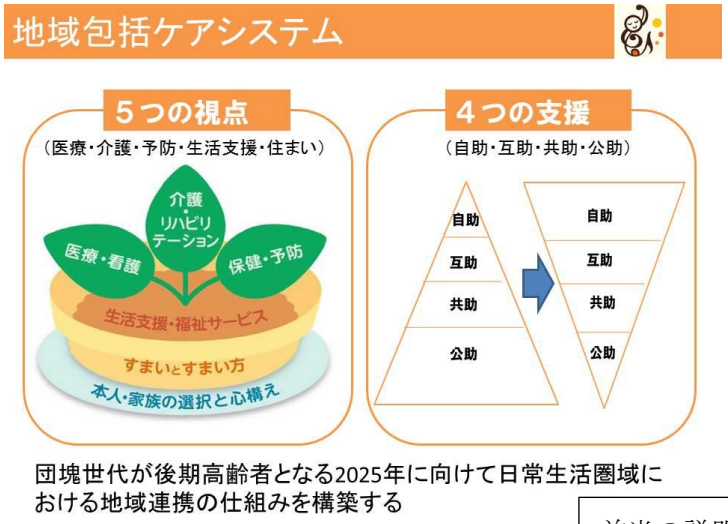
民生委員、福祉委員、自治会役員等　２２名

４．まとめ

明世地区では初の試みとして、社会福祉協議会明世支部が音頭をとって福祉関係団体懇談会が開催され、そこに共催させていただく形となりました。区長会をはじめ、民生・児童委員、福祉委員、長寿会、まちづくり推進協議会の代表が参集されました。明世地区でこういった集まりに参加させていただくことが、こちらとしても初であり、まずは高齢者の生活の実態を共有することを目的に病院、買い物、交流、その他の視点から現状を出し合っていただきました。

全体を通して明世地区には地区に根付いた生活をしてきた方が少なく、現役世代まで市外で過ごしてきた方や、市外から移り住んできた方が多く、コミュニティのつながりが緩いことが特性だと考えられました。戸狩や山野内においては、コミュニティバスの利用が多く、また、タクシーを使って買い物や病院受診をすることが生活の一部となっており、移動手段に不便さを訴える方は多くありませんでした。

また、戸狩や山野内では高齢者の閉じこもり防止としてサロンが開催され、今後は月吉区でもサロンの開催を目指したいとの意見が社会福祉協議会明世支部から出されていましたが、月吉区の反応は小さく、実現にはまだ調整が必要だと感じられました。



前半の説明で使用したスライド（例）

グループワークのまとめ

資料２

【病院】

・東濃厚生病院
・東濃中央クリニック
・野田整形外科
・金田眼科
・土岐市方面（土岐総合、佐分利クリニック
・加藤歯科、土岐市方面の歯医者
・手術必要なら名古屋の病院

コミバス（中央線）、タクシー

デマンドは不便

【買い物】

・ピアゴ、メイト
・生協の宅配
・旨みや号
・松ヶ瀬のセブン

コミバス（中央線）

行きは徒歩、帰りはタクシー

コメダ

【交流】

・男性は喫茶店が多い
・立ち話が多い（月吉）
・婦人会もなくなった
・山野内には常会がある
・戸狩：サロンがある
・山野内：サロンがある

気の合う仲間同士の付き合いはあるので、公民館を借りてまで大掛かりな交流には抵抗がある

束縛されるのは嫌

自治会加入率が低い

世代ギャップがある

まちづくりとか自治会とかが音頭をとってほしい

男性と女性では話題が合わない

【その他】

・松ヶ瀬、よそからの人が多い
・会話がなくなり、コミュニティーがなくなってきた
・移動手段は、いずれ心配
・<u>薬師、松ヶ瀬地域のアパートの住人は自治会未加入が多い</u>

資料２

【稲津地区】

１．開催日時

平成３１年２月２５日（月）午後１時３０分から３時

２．会場

稲津コミュニティセンター

３．参加者

回覧文書で参加を呼びかけ　３２名

４．まとめ

過去４年間、社会福祉協議会稲津支部との共催で認知症サポーター養成講座を行ってきました。５年目となる今年は、地域福祉懇談会と題して、地域の困りごとを出し合ってもらうガヤガヤ会議として開催に至りました。

稲津地区内には医療機関も商業施設に加え、老人憩いの家等、高齢者の健康づくりに寄与する施設もあり、他地区と比較しても、社会資源に恵まれていることが分かりました。また地区の公民館を利用しての交流の場やコミュニティセンターでの運動教室や麻雀教室等もあり、活動も盛んでありました。

しかしその一方で、町内の中心部と周辺部では社会資源の差があり、様々な活動に来てもらうための移動手段の確保について指摘する声が多くあり、乗り合わせを危惧する声もありました。

グループワークのまとめ

資料２

【病院】
・勝股医院
・東濃厚生病院
・なつこデンタルクリニック、ひらの歯科医院
・野田整形外科
（入院）
厚生病院、土岐総合病院

萩原：コミバス
小里：東鉄バス
介護タクシー

コミバス：200 円
タクシー：片道 1300～1500 円

【買い物】
・オークワ、ゲンキー、コメリ、セブン
・旨みや号

オークワ：水曜の９時から花配る

乗合で助け合っている

【交流】
・萩原の男性⇒ランプ
・民生委員、福祉委員⇒菜・美ら心
・１６～１７のサロン活動あり
・長寿クラブでパターゴルフ
・寿大学で卓球、マージャン
・サロン「よってこ」　月１回　７０－８０名の参加
・宅老所

送り迎えまでできない

興味関心を引くイベント等
拡充してほしい

【その他】
・<u>萩原での運動教室を継続できる支援</u>をしてほしかった
・コミバスも東鉄バスもあるが、バス停まで遠い人もいる
・訪問診療をしてくれる医者はあるのか
・父親が病院死は嫌だと言うので、在宅死の相談を医師としている
・一人暮らしで、家族に迷惑をかけないように、最期は施設で過ごしたい
・車の運転ができなくなると困る
・コミュニティ東側は住宅が増えてきた。自治会にも入る傾向
・老々介護で、自治会を脱会する人もいる
・新年会、常会が減り、疎遠になってきた

※ ＿＿＿は実現可能か

資料２

【分析】

陶、明世、稲津の３地区で福祉懇談会を開催した結果、陶地区のように地域のつながりが強い地区もあれば、明世地区のように緩い地区もある、地域差があることが分かりました。その背景には、陶地区では地元で働いてきた方が多く、地元に根付いた生活を送ってきた人が多いことが考えられます。また、稲津地区では萩原と小里では社会資源の差が大きかったり、明世地区でも同様に、月吉と他地区との社会資源に差があったりと、区ごとにも違いがあることも分かりました。同じ瑞浪市内でも、地区ごと、区ごとに住民同士の関係性や生活観に差があることを踏まえて、課題の可視化と共有、住民同士での支え合いという点においての解決策について協議を重ねていくことが、協議体に求められることだと思われます。

最後に、今回の３地区以外でも、人口が多い瑞浪地区や面積が広い日吉地区などにおいてもそれぞれ課題のとらえ方が異なっていることが想定されます。各地区の実情を分析し、実情に合わせた方法での課題の抽出、共有をどのように進めて行くのかとともに、地域での支え合いに賛同し、共に歩んでくれる住民リーダーとしての人材の発掘が課題だと考えます。